

## 地下水ブックガイド

### 8.略奪された水資源 地下水利用の功罪

柴崎 達雄 著  
築地書館 (1976)  
B6判 p.248  
定価 1,200円



---

#### 目次

##### 1 庶民から見た地下水問題

ある老女の物語、高度経済成長と水利用、地下水公害の発生

##### 2 素人から見た地下水学

水は方円の器にしたがわないのか、反水脈説の誕生まで

##### 3 水循環のなかの地下水

水循環のサイクルのなかで、塩に侵された文明、盗まれた農業用水

##### 4 目に見えぬ地下水流を追って

地質学の二大基本路線、地下水盆を動かしてみる

##### 5 地盤沈下の病巣をさぐる

地盤沈下現象にいどむ、浦和水脈の虚像と実像

##### 6 水資源としての地下水

日本列島水の会計簿、地下水利用の歴史

##### 7 深刻化する地下水公害

あらたの地下水公害、広域化する地下酸欠現象、社会現象としての地下水公害

##### 8 無駄使いされている地下水

地下水はほんとうに安いのか、水はあるだけ使う

##### 9 地下水はだれのものか

地下水はどこまでくめるのか、地下水公有論をめぐって、水資源と自治

あとがき

---

#### 紹介コメント

本書は、地下水学の研究に大きな貢献を残しただけでなく、第一線で活躍する多くの地下水技術者の指導者でもあった柴崎達雄氏が、農林省技官を辞めてフリーの地質技術者として活動していた際に、地下水問題に関する氏の“想い”をつづったものである。データを謙虚に見つめ、自然・社会問題の解決に全身全霊を込めて取り組む姿勢は、今の時代であっても新鮮に感じられる。若手技術者・研究者には是非一読いただきたい図書である。